

# 環境影響評価における 生物多様性オフセットに係る課題と 対応の方向性

平成26年12月6日

環境省 総合環境政策局 環境影響評価課  
水落 朋子

# 1. 「環境影響評価と生物多様性オフセット」 に関する検討の経緯

# 「環境影響評価と生物多様性オフセット」 に関する検討の経緯

## ●中央環境審議会の答申（平成22年2月）

「生物多様性オフセット等の生物多様性の保全に関する  
新たな技術動向について整理が必要」



## ●生物多様性オフセットに関する調査・検討

- ・国内外調査の実施（平成22～25年度）
- ・有識者による意見交換会の実施（平成24～25年度）
- ・平成25年9月、平成26年6月、「環境影響評価と生物多様性オフセット」に関するワークショップ の開催
- ・平成26年6月、「環境影響評価における生物多様性オフセットの実施に向けて（案）」を公表

# 「環境影響評価と生物多様性オフセット」に関する検討の経緯

- 事業による自然環境への影響の回避・低減を図り、それでも残る影響を代償する措置を事業者に求めるという点で、環境影響評価と生物多様性オフセットの考え方は、親和性が高い。
- 既往の導入国では自国の自然的・社会的な状況を踏まえ、その考え方は多様



環境影響評価の環境保全措置のひとつの考え方として導入することが考えられる



自然環境や土地利用制度等「日本の実情に沿った生物多様性オフセットのあり方」の検討が必要

## 2. 環境影響評価における生物多様性 オフセットの実施に向けて(案) の構成と主なポイント

# 位置づけと構成

- 環境影響評価において生物多様性オフセットの考え方を活用すると仮定した場合の、課題と対応の方向性を暫定的に取りまとめたもの

- ①社会的、技術的等の4つ側面で現状や課題を整理
- ②生物多様性オフセットを活用する際の「当面の課題」と、対応には長期間の検討が必要な「長期的課題」に整理
- ③「当面の課題」への対応案を検討・整理

 情報を共有し、関係者で議論を深め、実践のきっかけになることを期待

# 社会的・技術的な課題

| 社会的な状況                                                                                          | 技術的な状況                                                                                                                                                                        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①生物多様性オフセット制度の導入についての懸念の存在</p> <p>1)影響の<u>回避・低減の軽視の恐れ</u></p> <p>2)生態系の<u>価値づけへの抵抗感</u>等</p> | <p>①オフセットの前提となる影響を<u>回避すべき対象の情報(重要な生態系の地図化等)</u>が不足している</p> <p>②回避・低減や<u>残る影響を明示する手法は決まっていない</u>(定量化)</p> <p>③オフセット地の目標生態系の決定方法、可能な範囲(改変地からの距離)や配置計画の立案の手法にはなお課題があり、研究が必要</p> |
| <p>①オフセット地の維持管理の社会的、技術的課題(管理体制、不確実性等)</p>                                                       |                                                                                                                                                                               |

# 環境影響評価、その他の制度等における課題

| 環境影響評価に係る状況                                                                                                                  | その他の制度等の状況                                                                                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①環境影響評価において生物多様性オフセットをどこまで行うかは決まっていない</p> <p>1)事業者の実行可能な範囲での保全措置が求められている</p> <p>2)生物多様性オフセットは<u>余分なコストがかかるとの懸念</u>がある</p> | <p>①土地管理に関する法令や条例が複雑なために、オフセット地として利用可能な場所が不明確な場合や<u>土地の確保が難しい</u>場合も考えられる</p> <p>②事業費や地域の事情(過疎化等)により、オフセット地の<u>長期管理が困難</u>となる場合が考えられる</p> |

# 回避すべき対象の情報不足

課題：法的な指定等はないが、影響を回避すべき場所（再生・代替が困難な場、地域の重要な場など）を事業者が把握するのが難しい

## 対応の方向性案の例

- 地域の有識者、自治体、地域住民等により回避を優先すべき対象を明確にする（地図化）
- 再生、代替が困難あるいは長期間が必要な生態系タイプを整理する

# 評価手法の決定打不足

課題：回避、低減の実現程度や必要となる代償の程度を評価する決まった手法は無い

## 対応の方向性案の例

- 国内外の類似手法の整理、事例紹介、情報提供
- 定量的・定性的に関わらず、評価方法等を関係者間で共有し、柔軟に地域の合意が得られるように進める。←アセスのプロセスを活用

# オフセット地の維持管理

課題：維持管理費の継続的確保、過疎化による人手確保等が困難となる可能性

## 対応の方向性案の例

- 地域の自然環境保全に取り組むNPOや関心を持つ企業、行政等との連携による維持管理

# アセスで実施するための 良い事例の集積・整理

課題：環境アセスで生物多様性オフセットをどこまで行うかは定められていない。生物多様性オフセットの実施にはコストがかかるとの懸念

## 対応の方向性案の例

- 環境保全措置として有効だった事例、コスト低減が図られた事例等の収集・整理
- 「回避」事例、事後の評価結果等の集積・整理

### 3. 今後の取組み

# 今後の取組み

## ●「対応の方向性案」にかかる具体的検討

- ・ アセス以外も含め、国内の過去の回避、低減、代償、その後の管理状況に関する事例を収集・整理し、改善の可能性の検討、定量化や評価手法のシミュレーションの試行など
- ・ ワークショップの開催等による、対話の場を設ける
- ・ 上記を基に、試行の手引きを作成

## ● 長期的課題への対応策の検討

- ・ 国内外の制度や事例等の継続的調査

## ● 環境研究総合推進費「環境保全オフセット導入のための生態系評価手法の開発」(代表研究機関: 森林総合研究所、平成26～28年度)との連携